

A 4 7 / 1 2

# 生徒を育てる担任力

— 効率的かつ「生徒」満足度の高いクラス経営を考える —

増井洋介 (尚絅高等学校)

【報告書の構成】 1. 研究動機ほか 2. アンケート結果から考える担任力  
3. 書籍で担任力を高められるか 4. 担任力について取材する 5. 終わりに

## 1. 研究動機ほか

この研究課題に対するこれまでの経緯を概略だけ述べておきたい。私は勤務校に常勤採用されて以降、22年間で18回の担任経験を持つ。しかし、この間のクラス経営が上手くできたか振り返ると、ほとんど自信がない。戦績に例えれば「3勝13敗2分け」くらいか。ただ、他が見たら評価は異なるかもしれない。進学実績と異なり、クラス経営の成否は数値化することが難しい。とはいえ、担任いかんで、中退予備軍と見られていた生徒が救われたり、逆に素直だった生徒の心がすさんだりといったことを、他校を含め多く見聞きする。クラス経営は学校の教育活動のなかで決して軽視されるべきではなく、生徒の一生を左右する重要な要素とも言える気がする。

私学の担任をとりまく環境は厳しい。「守備範囲」は拡大する一方で、生徒・保護者の要求は日々強まる。一方、そのような困難を感じさせず、のびのびとクラスに関わり、いいクラスを作り上げる先生方がいるのも事実で、欲深い私はそのノウハウを学び、研究成果として発信したいと考えるようになった。全国の私立高校で担任として日々クラスに関わる先生方に、クラス経営のアイデアを提示できれば嬉しい。

## 2. アンケート結果から考える担任力

### ①生徒たちへのアンケート

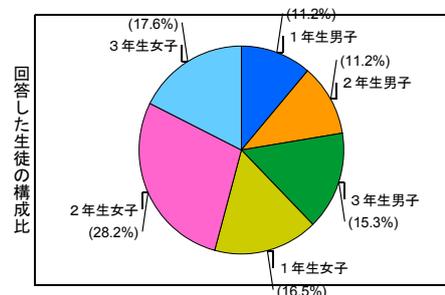
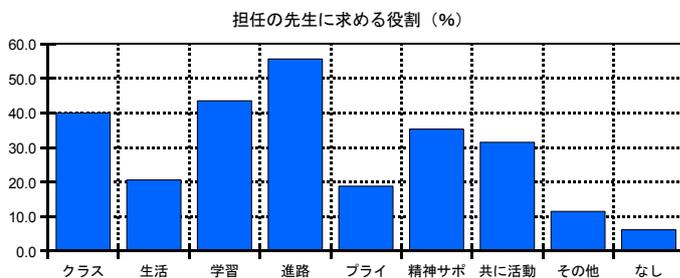
アンケート対象：340名（地域は北海道～鹿児島 担任・管理職の先生方も同）

アンケート方法：候補校にサンプルを送り、協力可能校に本用紙を送付。用紙は全て封入してもらい、全体を混ぜ合わせ、個人が特定されないよう配慮した。（以下、コメントでは敬語表現を略する）

Q1 あなたが、高校の担任の先生に求める役割を、次のうちからいくつでも選んで下さい。

※「現在あなたを担任していらっしゃる先生に」ということではありません（Q2も同）。

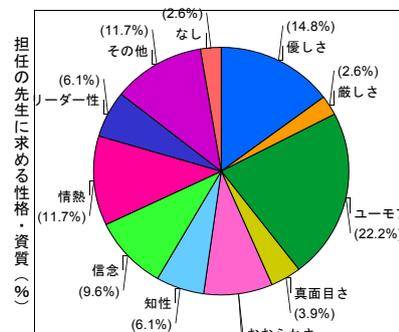
- きちんとしたクラス経営  生活態度の指導  学習の指導  進路の指導  
 プライベートの相談相手  精神的なサポート  行事やLHRで共に活動  その他  特になし



「進路指導(55.6%)」、「学習指導(43.5%)」が高い。依然経済の先行きが不安視されるなか、将来志向が強まっている。一方で「生活態度の指導(20.6%)」、「プライベートの相談相手(18.8%)」が低く、自分の領域に立ち入られたくない意識が表れた。しかし「精神的なサポート(35.3%)」を求める生徒が3分の1を超えており、これは性別・学年差の偏りも小さい。

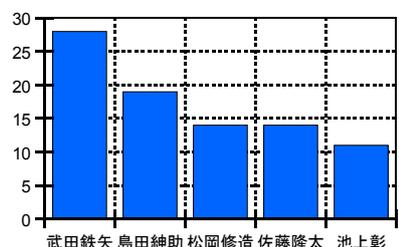
Q2 あなたが、理想と考える高校の担任の先生に最も強く求める性格や資質を、次のうちから1つ選んで下さい。  
 優しさ  厳しさ  ユーモア  真面目さ  おおらかさ  知性  信念  情熱  
 リーダーシップ  その他  ない

いずれも大切な資質で「最も強く」求めるものを問うてみたが、複数回答が109件と多く、これは私の問い方が不明瞭であったか。多い順から「ユーモア」、「優しさ」、「情熱」である。「ユーモア」を求めるは男子が女子より高かった。「優しさ」を学年別で見ると、1年生が最も高く(25.8%)、2年生(13.5%)、3年生(6.7%)と学年が上がるにつれ減少している。1年生に関わる上では、よりケア的であることが求められる。



Q3 あなたの理想とする担任の先生像を、有名人に例えれば誰ですか？ (1人)

俗っぽい質問ではあるが、「担任像」としてイメージしやすいかと考え問うてみた(縦軸数値は回答数)。ドラマで先生役を演じる俳優や、軽妙なトーク、スポーツの熱血指導、分かりやすいニュース解説がそれぞれ特徴的な有名人が上位に入った。



Q4 あなたが高校入学から今までで、担任の先生からかけてもらった言葉や、担任の先生がしてくれた行動で、嬉しかったことや救いになったことを、よろしければ教えてください。

複数回答・目を引いた回答を大まかに区分してみた(太字は複数の生徒が回答)

- 【励ます言葉】 **「やればできる」「自分らしく」「どうにかなる」「君の努力は私が知ってるから大丈夫。上手くいく※1」「君は変じゃない、個性的なんだ」、成績が急に下がっても怒らないで「信じてる」と言ってくれた※2。勉強についていけるか心配だったときに励ましてくれた※3。 他**

---

- 【褒める言葉】 **「頑張ってるね」「取り組む姿勢がいい※4」「姉にないものを持っているので、頑張れば姉より伸びるよ※5」 他**

---

- 【気構え的な言葉】 **「苦手教科より得意教科を頑張れ」「失敗したあとの行動次第で自分は変わる」「学校は勉強だけしたって意味がないんだ」「慣れが怖い※6」「人生は前向きに生きるからこそ辛い※7」「最後まで続けることが大事」「If there is a will, there is a way.」 他**

---

- 【労をねぎらう言葉】 **「ありがとう」「よく頑張ったね」** 掲示物を「ありがとう、見やすくなったね」と言ってもらった※8。 他

---

- 【叱咤する言葉】 **「あきらめるな」「しっかりしなさい」「今の自分でいいのか※9」「もっと積極的になれ」「君は学校の中心になれる」 他**

「言葉の力」を再認識させられる。教室で楽しそうにしている高校生たちも多くは不安を抱えている。寄り添う言葉(※1~3)が、どれほど救いになることか。かつて生徒指導の研修会で聞いた言葉が思い出された。「誰かがその生徒と学校をつなぐ存在になったら、不登校は減るんです」。

結果だけを評価されるのは辛い。努力の過程を誰かが見ていてくれれば(※4)、それは生徒にとって救いとなる。また、「較べないように」とはよく言われることだが、誰々より「優れたところがある」は効果がありそうだ(※5)。惰性に陥りがちな生徒に、それに埋没させないよう喚起する言葉(※6)も重要である。悩み多い時代にあって、悩むことに肯定的な意味を与えること(※7)も、求められる言葉かけだろう。他者のためにしてくれたことには、気付く限り言葉をかけるべきだろう(※8)。それは、生徒に対し「ちゃんと見ているよ」というメッセージでもある。言葉は、その内容が教条的であるほど反発もされる。自己のありようを問う言葉かけ(※9)が効果を持つことも多い。

【進路実現に関する行動】 **何度も進路相談に乗ってくれた。反対せず話を聞いてくれた※10。進路の話も熱く話ってくれた。 他**

<p>【寄り添う行動】 学校行事に先生も一緒に参加して頑張った。悩みの相談に乗ってくれた。自分の昔話をしてくれた。友人とトラブルがあったとき相談に乗ってくれた。すれ違いざまに声をかけてくれた※11。 LHRの時にみんなで楽しめるようなことをした※12。 他</p>
<p>【助ける行動】 いろいろあったときに、家に電話してくれたこと※13。クラスの悪口を言われたとき、本気で怒ってくれた※14。他</p>
<p>【導く行動】 大人の考えを示してくれた。目標を見つけるきっかけをくれた。本気で怒ってくれた。積極的に動けと言ってくれた。他</p>
<p>【学習をサポートする行動】 放課後分からない箇所を教えてくれた※15。苦手教科を得意にしてくれた。学習相談に乗ってくれた。他</p>

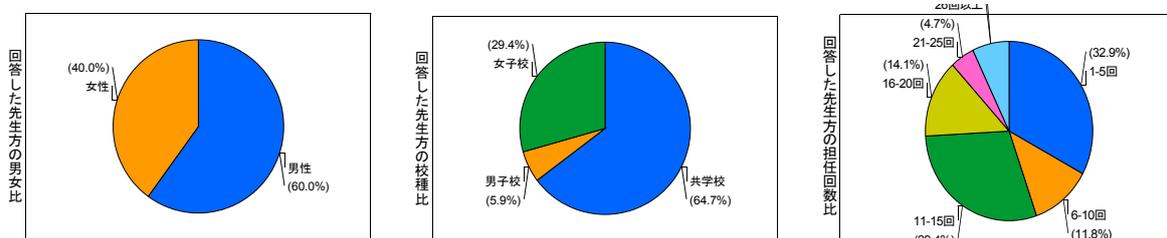
自分の将来への不透明感は、生徒個人の力では払拭するのが難しい。一大人として関わり得る進路相談では、まず、意見を丁寧を受け止める必要がある（※10）。能力に乏しい担任ほど「あームリムリ」と言いがちで、これでは生徒は救われない。人目を気にする生徒への助言は、場合によっては逆効果となる。何気ない言葉かけや、他に知られない状況でメッセージを発することが効果的ではないか（※11, 13）。

担当教科に限らず、LHR等の活動バリエーションは、多く持っているにこしたことはない。特に、「クラス開き」をどう行うかは、クラス運営の方向付けに関わる。担任として方針を語る必要性はもちろんあるが、「クラスで上手くやっていけるか」と不安を抱えている生徒に対しては、構成的グループエンカウンター（SGE）等で他と関わる契機をつくることも重要である（※12）。生徒が、他クラスの生徒からクラスの悪口を言われることも時に起こる。この時の対応は難しい。無根拠なものであれば、生徒と共に心外であることを露わにしていけないのではないか（※14）。ただ、大人としての冷静さは失わずにいたい。担任は、教科指導でもプロでなければならない。教科指導における信頼感は、クラス経営にもプラスに作用する（※15）。可能であれば、担当以外の教科でも基礎的な箇所は教えられる知識と技術を身につけておきたい。

## ②担任の先生方へのアンケート

アンケート対象：85名 アンケート方法：対生徒アンケート同

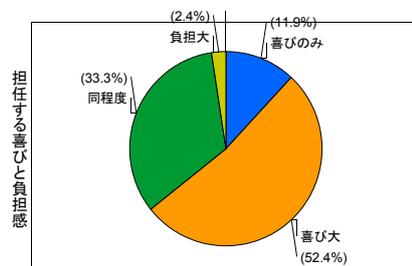
対象となる先生方の比を私学全体と比較すると、若干、「女性」「女子校の先生方」「若い世代・中堅世代」が高い。



Q1 現在、クラス担任の仕事についてどのようにお感じですか、近いものをお選び下さい。

- 喜び・やりがいのみ感じる   
  喜び・やりがいが負担感に勝る   
  喜び・やりがいと負担感が同程度である   
  喜び・やりがいはあるが負担感が勝る   
  負担感のみ感じる

この質問への回答は、客観的な仕事量とは必ずしもバランスしない点に注意が必要である。「喜び・やりがいが勝る」の割合が過半数にのぼった(52.4%)。「負担感のみ」は皆無で、担任という役目が、先生方の奉仕的な精神、責任感によって支えられていることが窺える。性別による差はあまり見られなかった。担任回数別で見ると、「喜び・やりがいのみ」「喜び・やりがいが勝る」の合計は「6-10回」の80.0%が最も高い。担任の仕事が軌道に乗る頃であるためか。注意が必要なのは、16回以上になると、同じ「喜び・やりがいのみ」「喜び・やりがいが勝る」の合計が約半数に下がる。校内外で役割が増え、次第に喜びを感じられなくなっているのではないかと推察される。

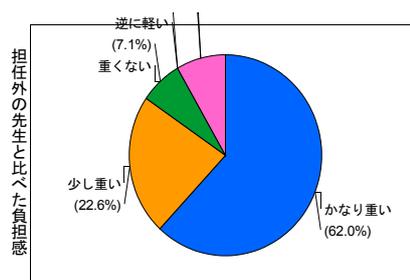


Q2 先生は、副担任の先生方に比べ、担任の負担が重とお感じですか？

※ここでいう「副担任の先生」には校務分掌の長は含みません。

- かなり重いと感じる   
  少し重いと感じる   
  重いと感ぜない  
 逆に担任の方が負担が軽いと感じる   
 考えたことがない

ここでは「Q1」の担任実感を、「負担感」に限定し、担任のない先生方との比較で問うてみた。負担が「かなり重い」が60%超、「少し重い」が20%超で、合計すると85%に迫る。この不公平感は放置されるべきではない。ここでは性別による差が顕著に見られ、「かなり」と「少し」の合計は、男性94.1%、女性69.7%で、約25ポイントの開きがあった。これで「男性教師の負担が重たい」とも「女性教師が不公平感を持ちにくい」とも即断できないが、この傾向には留意しておいていい。担任回数との相関では「かなり」の割合は「6-10回」が90.0%と最も高い。担任が軌道に乗り始める（「Q1」で言及）一方で、周囲との比較で仕事量を捉える余裕が生まれるためか。



**Q3** 先生が担任であるが故に真面な~~さ~~った(またはな~~さ~~っている)最も大きな困難は、次のどれに関するものですか？該当するものをお選び下さい。 ※複数回答可です。

生徒の生活態度     生徒の学力・学習意欲     生徒の進路問題     生徒との関係

保護者との関係     現在の社会情勢     その他     特にない

教師が直面する問題は、多くの場合複数の要因を持つ。「生活態度」が44.7%と最高で、これに「学力・意欲(35.3%)」、「対保護者関係(26.0%)」が続いた。2009年に実施されたPISAの結果が前回(2006年)の結果を全体的に上回った報道は記憶に新しいが、多くの学校で「学力が低下した」との話を耳にする。「モンスター・ペアレント」の出現以前から、保護者との関係の難しさはあった。学校教育を一般的なサービスと同じように受け止める「消費者的な意識」は高まっている。その受け止め方にも一理はあるのだが、担任と生徒・保護者の関係が難しくなる原因視もされる。



**Q4** Q3の困難を克服な~~さ~~った先生にお尋ねします。そのとき、どのような対応をな~~さ~~ったか、教えてくださいませんか？

複数の要因にまたがる問題もあると思われるが、大まかに区分した。(太字は複数の先生が回答)

- 【生活態度に関する問題への対応】 **ねばり強く指導した。生徒に寄り添うように心がけた。周囲の先生方の協力を得た。対話を心がけた**※1。頻繁に声をかける。一緒に改善点を考える。心掛けて教室に足を運び、時間を共有するようにした。頭ごなしに指導しない。長期的回復と維持を目指している。

---

- 【生徒の・学力意欲に関する問題への対応】 **周囲の先生方(特に教科担当者)の協力を得た**※2。家庭に協力を求めた。個別指導を繰り返した。時間をかけて生徒と話した。小さな目標を設定し達成させた。自分の将来を熟考させた。対話機会を増やし不安感を取り除くようにした。

---

- 【進路に関する問題への対応】 **保護者と連携した**※3。各種の研修会で知識を得た。他校の先生と交流し情報を得た。時間をかけ対話。

---

- 【生徒との関係に関する問題への対応】 **まずは相手の言い分を聞こうとした。生活全般を見て関係を作ろうとした。周囲の先生の助力。**

---

- 【保護者との関係に関する問題への対応】 **直接会って話をした。保護者の意見にまずは耳を傾け、その後、学校側の考えを伝えた。**

---

- 【現在の社会情勢に関する問題への対応】 **掃除や行事の時などに、同じ教室の中に自分以外の人がいることを認識させるようにした。**

---

- 【その他の問題への対応】 (概要)〈問題〉生徒間トラブル→〈対応〉言い分を言い合う場を作り糸口を探る。 〈問題〉発達障害の生徒の行動→〈対応〉関係者の話を聞き学校全体の対応を検討。 〈問題〉不登校→〈対応〉家庭に連絡を取り学校カウンセラーとフォロー。

すぐに実践できそうな回答が多く寄せられた。キーワードは「対話」「連携」か。問題が生じると、立場を利用して「力」で指導しようとする光景がよく見られる。私も人のことが言えない。ただ、多くの場合失敗する。

生徒も人間である。「力」で指導する教師には技量の向上が見られない。厳しく指導すればこそ、日常的に対話のチャンネルを開いておく必要がある(※1)。校内的な協力体制がとれていることは心強い(※2)。教科担当者との連携は特に重要である。これができていないと、欠課超過など問題の発見が遅れ、逆に生徒が授業で見せる良い面が把握できない。但し、連携するといっても、両者が一緒になって生徒を責めてしまうと、生徒も救われない。生活指導において、他の担任との間で指導にばらつきがある場合、生徒たちは聴くそれを見抜く。複数で指導体制を組むことで、「学校の指導」であることを意識させることができる。校内的な協力には逆の面もある。指導力のない担任が安易に同僚の協力を求め、いつまで経っても、本人のクラス経営はお粗末なままであるなど。保護者との連携も大切である(※3)。気になる行動は生活指導問題として露頭する前に家庭に連絡をとっておきたい。また、家庭に起因する問題が学校生活に表れ、打つ手が早かったために深刻化を回避できもする。

Q5 先生が、クラスに関する仕事のうち、パソコンを用いるなどして顕著に合理化できていることがあれば、教えて下さい。

「クラス経営」の枠を越えて様々な活用事例があった。

【校内生活に関すること】… 席替えの表作り。提出物の処理。出欠管理。年度初めの生徒書類作成。事務室からの出欠連絡。
【文書作成に関すること】… 学級通信。通知表。過年度クラス通信のストック、編集。諸文書に書き込む所見の管理。
【学習指導に関すること】… 教材作成。学習時間や面談で話した内容をデータ化。動画教材を i-phone に入れて、プロジェクターで投影。試験問題の作成。生徒の伸びが分かるシステム。宅習調査。作ったワークシートは保存しておく、手を加えるだけで使える。
【成績処理に関すること】… 成績分布の処理。学級通信に載せる個別の成績データ作成。個票で教科バランスを把握させている。
【進路指導に関すること】… 面談資料作成。進路情報の処理。調査書作成。
【情報発信に関すること】… 写真を保護者向けにアップロードしている。保護者会の資料作成。

担任事務を電子化するメリットは、情報処理の高速化と情報利用・保存の利便性向上にある。通知表や推薦書などの電子化については賛否両論があるが、時短によって捻出された時間を、クラス経営を充実させる活動に充てることは可能だ。教師の仕事においてもデジタルの領域が今後ますます拡大すると思われ、その方面にアンテナを張ることが必要視される。と、分かったようなことを言っているが、先生方から寄せられた次のような意見にも共感した。「パソコンの方が時間がかかる」、「かえて仕事量が増えており、〈合理化〉できているか疑問」。

Q6 最後に、先生の「クラス経営のコツ」のようなものがあれば、教えていただけますでしょうか？

「対話」「距離感」「愛情」「気配り」等をキーワードにまとめた。入り混じっているところがあるかもしれない。

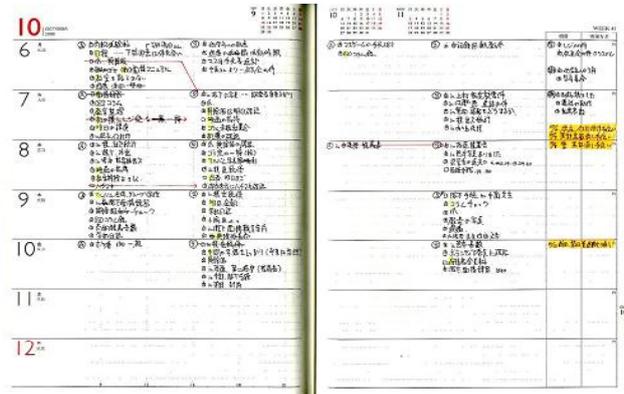
【対話】… 生徒の言い分を聞いてから話す。通信などで教師の側の気持ちを生徒に分かってもらう※1。対話から長所を見つけだし、クラス内での役割を持たせている。HR でトピックを出して共通話題を作るようにしている。問題が起こったら何が問題なのか担任としての考えをきちんと伝える※2。
【距離感】… 近すぎず遠すぎない生徒との距離感と、熱意ある丁寧な関わり。向き合うときは、本気になってぶつける。放課後、一緒に掃除をする。放課後、何をしなくても、同じ空間に身を置く。寄って来やすい雰囲気を醸し出す。時には生徒と同じ目線で、生徒と共に喜ぶ。
【愛情】… 共にいて嬉しいということを伝える。生徒は下の名前で呼ぶ。自分がどう見られるかより、その生徒に対して今何が必要かを考えること…目線が自分に向いていると、生徒への見方を誤ってしまう※3。「愛情」をかける。見守る。生徒の誕生日を覚えておく。生徒を必ず「君」「さん」で呼ぶ。
【気配り】… 学級日誌に毎日コメントする。生徒に関しメモをとる※4。良いことは細かいことも保護者に伝えるようにしている。生徒に必ず一日一声をかける。生徒の少しの変化も心に留めておくこと。すぐ謝る。見られている気にさせること。
【信念】… 自分が全力で頑張る姿を見せる。「ダメ」なものは「ダメ」と曖昧なところを見せない。最初の1週間でクラス経営方針を理解させ、ぶれることなく指導にあたる。生徒たちを絶対に守りきるという強い使命感を持つこと。ブレない。集団の意識を「まじめな取り組みが大切」の形にもっていく。

【信頼関係】… 行事などでは生徒を精一杯応援する。誤ったことや曖昧なことは言わないよう心がけている※5。教科指導において、信頼してもらえよう努力する。校内漢字検定を生徒と一緒に受け、自らが頑張る姿を見せる。できるだけ、生徒との時間を作るようにしている※6。

【その他】… 保護者を味方につける。女子をしっかりまとめていく。若さを保ち、常にアンテナを高くしておく。性差を理解して進めること。

対話を大切に回答が最も多かった。その重要性は「Q4」でも述べた通りで、対話がなければ文字通り「話」にならない。担任の基本的な考え方を多く発信しておくことも有用で(※1, 2)、これは保護者の担任理解にもつながる。一方で、担任の意識が「自分がどうしたい」だけに向くことを警戒する回答があった(※3)。

生徒の気になる行動や対応を記録しておくことは重要である。記録に勝る記憶はない。生徒の努力や周囲への貢献についてメモすることも重要である(※4)。私は、連絡ノートの右端に、生徒の行動をメモ書きする箇所を設けており、評価できる行動は、ペン書の上からオレンジの蛍光マーカーを塗る。所見を書く際にも役に立つ。また、言い漏らしを防ぐチェックボックス(□)を各事項に設けたり、後回し事項を目立たせるための変更矢印の朱書などを(右画像)。正しく情報を伝える(※5)ことは重要だ。生徒と接する機会を意図的に増やす回答(※6)も多く見られた。



③校長先生へのアンケート

アンケート対象：14名(地域は北海道～鹿児島)

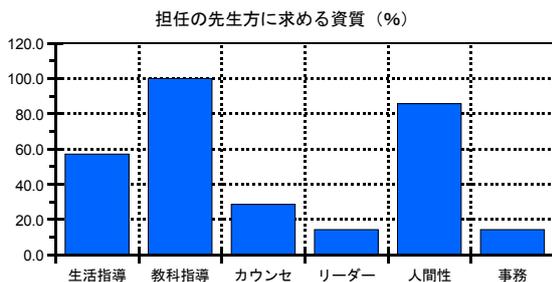
アンケート方法：本人が特定されるので、校名を出す可否をアンケート内で答えていただいたが、スペースの制約からこの報告書では割愛した。対象者は少ないが、先生方の、長いキャリアに基づくエッセンスが随所に示されたように感じる。

Q1 校長先生が、担任の先生方にお求めになる資質は、次のどれでしょうか。強くお求めになるものから3つまでお選び下さい。

- 厳格な生活指導力
- 授業などの教科指導力
- カウンセリングマインド
- リーダーシップ
- 人間性
- 的確な事務処理能力
- その他

3つに絞り込んでもらった。「教科指導力」の重視は強調したい。教科指導力の中心は授業力である。どんなに立派なことを述べても、授業がダメなら生徒は見抜いてしまう。「人間性」が続いたが、「リーダーシップ」の低さは意外だった。「その他」の例示が数件あったので紹介したい。「一人ひとりの生徒理解に基づく生徒指導力」、「誠実さ」、「社会が求める人材の育成」、「生徒の個性を発掘し、発揮できる時と場を与えて伸ばさせる」。「全ての事柄が〈生徒の善〉のために」という回答は、こう続けられていた。

「先生個人のプライドや利益などが優先されないよう、生徒に理解できる方法で指導すること」。



Q2 校長先生が、担任の先生方に普段からアドバイスなさっていることがあれば、宜しければお教え下さい。

生徒を尊重すべきとの答が目立った。「真剣に向き合い、人格を否定しない」、「生徒たちが先生から(愛されている)と実感できるよう務めて下さい」など。他、「生徒が欠席したら即家庭訪問」、「朝の学級会では伝達のみでなく、話の事例を集めておく」のような具体的なものや「教師としての自覚と三者(易者、学者、役者)を持ち合わせ、信頼を得る」があった。教師に対しては「頑張れ頑張れ」という言葉がかけられがちである。気持ちには分かるのだが、重点を絞らなないと、どれも中途半端に終わることにもなる。そんななか「仕事の軽減」という回答は新鮮だった。こう続けられていた。「仕事をどんどん増やす教員が多いが、本当に必要かどうかを見極めないと」。機会費用を考えねば。

Q3 担任の先生がクラスをめぐるトラブルに直面なさったとき、どんなサポート体制をおとりですか、宜しければお教え下さい。

多くの回答が共通で、「クラス担任と学年会が協議、その上で生徒指導部長に、その上で教頭に、場合によっては運営会議に。共通理解が重要」など。「校長、教頭がまず正確に事情を調査、判断し、その上で真摯に対応」との回答も見られた。早期解決を原則とするものでは「生徒指導部中心に多面的に思考し、最善の対応を。その日の出来事はその日のうちに解決を」があった。

Q4 先生のご経験から、うまくクラス経営を行うコツのようなものがあれば、お教え下さい。

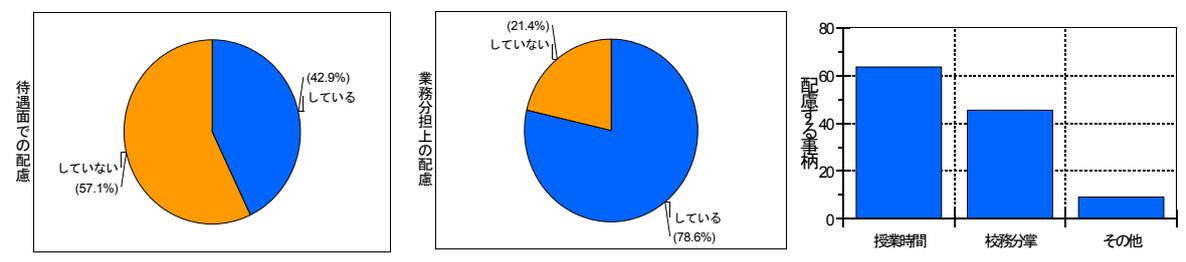
「生徒と共にあれ」との回答が多かった。「教室の中の一員になる工夫と、話を聞いてやること」、「対等に向き合う。ごまかさない。非はすぐに認める」、「〈共に喜び、共に生きる〉ことをモットーに」など。指導者然とするのではなく、まず生徒を同じ人間として認め、寄り添う心を持つことが大切だ。他、「長所を見て生徒を動かす。ほめる時はほめ、叱る時は叱る。いつも穏やかに」はメリハリを強調している。

Q5 先生の学校では、担任の先生方に対する諸手当など待遇面の配慮はなさっていらっしゃいますでしょうか。

Q6 先生の学校では、担任の先生方に対する業務負担上の配慮はなさっていらっしゃいますでしょうか。

Q7 Q6で「している」をお選びになった先生にお尋ねします。その配慮とは次のうちどれに該当しますでしょうか。 ※複数回答可です。  
 授業持ち時間数の軽減     校務分掌の軽減     その他

Q8 Q7で「授業持ち時間数の軽減」をお選びになった先生にお尋ねします。具体的にどの程度の軽減かを、差し支えなければお教え下さい。



待遇面での配慮は約4割だが、業務分担の配慮は多くでなされていた。「正副担任の分担を明確化」と枠組みを設けると簡明でいい。「Q8」の「授業時間数」では、「週1～2時間」、「総時間を16時間とし、中学はHR・道徳を、高校はHRをその中に入れる」、「平均18時間だが、14時間、10時間にしている」など。「3～4時間」の軽減は必要だろう。LHRは、教科の授業以上に準備が必要なことも多い。従って、週1時間のLHRでも、多めの時間数を配慮し、よりよいLHRを創出するよう言葉かけをした方がいいのではないかと。

### 3. 書籍で担任力を高められるか

クラス経営を学ぶ書籍を何冊か取り上げ、夏休みを利用し読んだ(①～④)。その概要を紹介したい。

①『学級経営力を高める3・7・30の法則』(野中信行著 学事出版) …「3・7・30」の「3」は新クラス最初の3日間、「7」は一週間、「30」は一ヶ月間。この期間にやるべきことを押さえれば、クラスづくりは8割終了すると筆者は語る。担任経験の浅い小学校教師を読み手に想定し書かれているが、高校のクラス経営に使える内容も多い。特に「クラスづくり最低限の五原則」中の「学級の仕組みを作ること」、「学級を集団として高めること」。

②『学級経営と授業で使えるカウンセリング』(諸富祥彦他 ぎょうせい) …諸富編集代表は「今日のクラス経営は、〈カウンセリングのノウハウ〉と、それを支える〈心理学の知見〉なくして行えない」と述べる。これらが種々の理論や手法によって縁取られていく。「学級づくり—こんなクラスを目指したい—」(植草編)では受容的態度が協調され、教師と生徒に信頼関係が生まれる前提として「教師が生徒を受け入れること」が挙げられている。

- ③『仕事がかどる クラス担任の事務手続きガイド』（小川一郎編著 学事出版）…まえがきの通り、初心者や経験の浅い教師に向けて書かれている。4章構成で、必要に応じ参照できる。羅列的であるため通読には適さないように感じられる。編纂の立脚点「クラス経営の重要性」に共感できる。
- ④『学級経営の急所』（向山洋一著 明治図書）…小学校の先生と一緒すると耳にする「法則化運動」。グループ代表向山氏のクラス経営論である。「生徒への話は短く」などには頷ける。教師の差は「結果の責任をどこに求めるか」の違いという点は共感を覚えた。私たちは、生徒のせいにはならない。
- ⑤『教師の力』（石川保茂著 ミネルヴァ書房）…3章構成の「Ⅱ. いいクラス経営をしよう」を再々読した。私が最も影響を受けている本で、場面ごとのアイディアは、どれも役立った。また、「クラス開き」や「文化祭準備に入る前」、「服装検査」など、場面によっては具体的なMC例が挙げられている。私たちが生徒の前に立つとき、緊張感や力み、逆に惰性或無神経などによって「死角」となるポイントを、穏やかに語りかけてくる。

#### 4. 担任力について取材する

前回研究（2006年度）同様、今回もテーマに関係する学校や研究者を訪ね話を聞いた。インタビューは録音分だけで4時間48分、記録はB5用紙99枚に及んだ。この部分の記述では、臨場感を伝えるため対話の一部をそのまま抽出してみた。（敬称略）

①中村中学校・高等学校 2010年10月06日（水） 担任学研究会事務局長中沢先生の推薦で、訪問することにした。正面に清澄庭園を望む絶好のロケーションを持つ同校は、地域とのつながりを大切にしている女子校である。当日は文化祭前日にあたり、準備に奔走する生徒たちの姿が微笑ましかった。

【高2担任 野志尚美先生】 野志先生は、優しく厳しい。生徒から見ると、頼りがいのあるお姉さんの存在か。教育誌に載る実績歴を持ちつつ、絶えず自分のクラス経営を検証する。それでいて自然体で、生徒を先入観なく捉えている。常にキャリアデザインを視野に、生徒と丁寧に関わる姿勢を学んだ。

##### 【全体に厳しく、個人に優しく】

増井：（略）先生は担任歴が長くいらっしゃるんですが、担任をする上での「基本的な気構え」…というところ堅苦しくなりますが、基本的な考え方ってどういうことですか？

野志：先生の方が先輩でいらっしゃるからおこがましいですが…。

増井：全然そんなことないです。いいですよ。

野志：ご質問いただいて、色々考えてみました。考える機会を与えていただいて感謝してるんですけど、「全体に厳しく、個人に優しく」というスタンスを自分では持っているかな、と思います。

増井：全体に厳しく…個人に優しく…するわけですね。

野志：そうです。全体に指導するときと、個人面談とでちょっと態度を変えているかなと。自分で感じていて。

増井：なるほど。（中略）

増井：結構、それって生徒さんがおいでになるでしょ？先生のところに。

野志：そうですね。堅苦しい感じで別室での面談っていうのと、教卓の周辺でベラベラと、というのがあります。

【副校長 永井哲明先生】 永井先生は、各担任、教科指導者と対話的に関わりつつ協働関係を創出する。「初任者研修」を上手くマネジメントして分野横断的な学びの場に行っているアイディアは、多くの学校で参考になるだろう。同校の生徒面談には、先生が中心となって整備したマニュアルが用いられている。

##### 【対話的な学年集団作り】

永井：（略）そういうことも学年の主任とか副主任は大事にしていますね。

増井：コミュニケーションってことですね。

永井：学年会議っていうのを一週間に1回取ってますが、それ以外に「いかに話すか」ですね。生徒のこと、学年の方向性…そういうことを座席で話すことができるかどうか、そこが非常に大事なことになると思いますね。それが学年とない学年で差が出ますね。

増井：ふーむ…学年主任がある程度イニシアティブを取って、学年のことを話題にできるかどうか…。

永井：いや、えっと…イニシアティブを取って、学年のことを学年教員が話すような「雰囲気を作れるかどうか」ですよ。学年主任がいなくなると、いいんです。担任と副担任がいれば、学年主任は大体、担任もってないので。担任副担任が集まって、色々…もちろん学年の方向性とかになれば、学年主任がいた方がいいと思いますけれども。別にみんながいなくても、AさんとCさんが話したことを、AさんとBさんが話すとか。それでもう充分なんで…それで、BとCが新たにDを入れて話していくとか。それが今、段々希薄になってるんですね。

②自由の森学園中学校・高等学校 2010年10月07日(木) 歴史授業研究会で同校の実践に触れ、主体性を育てる学校のあり方に関心を持ち訪問した。同校にはペーパーテストや、それに基づく序列がなく、生徒と先生方が対等の立場から学びを作り上げる。松田クラスの二人の生徒にも話を聞いた。

【高3担任 松田和彦先生】 松田先生には、同校で自分のスタイルを確立するまでに苦闘があった。偉丈夫だが生徒に強制しない。生徒と過ごす時間を大切に、細やかに配慮する姿から多くを学んだ。初任した小学校で校長先生から見守られた体験が、「まっちゃん」と呼ばれ慕われる原点にある。

【命じず、問う】

松田：(略) 意図的にやってるのはね…僕は限定的にものを言わないですね。で、まず…ほとんど質問型ですね。

増井：「何しなさい」ではなくて…。

松田：「君はどうしたいの？」例えば、「まっちゃん、まっちゃん、これやっていい？」って、「やりたいの？」って返すでしょ。質問ってほら、質問された側にしてみると答を探す作業ですよ。

増井：あーなるほど…。

松田：ただ、その答も外には落ちてませんから…自分の内側に取り返す作業じゃないですか。それをもう3年も続けてくると、ごく当たり前のやりとりになってくる。だから…だんだんねえ、高3にもなると、最初は「これどうすんの」「あれどうすんの」って来てたのが、「僕はこうなんだけど、私はこう思うけど、まっちゃんどう思う？」っていう言葉に変わってきますよね。

増井：なるほど…。

松田：「ああそうだね…僕はこう思うけど、どう？」って返すんですよ…っつか最終的に決定して動かなきゃいけないのは生徒ですから…うん。で、自分で決めたいということがあるとね、たとえ失敗しても「またやりなおししよう」っていう風に、どうも思うみたいです。

【求める担任像】

アキツグ君(以下「アキ」)：僕は…割りと…高校生になってやりたいこととかもできてるので、だからそれを、まあ「いいんじゃないの」みたいな感じで。

増井：大事してくれる…。

アキ：まあ応援と手伝いはするけど、まあ基本的には「自分でやってねー」みたいな。

増井：じゃあ、今もうほとんど理想型が実現しているような(笑)、かたちですよ。(中略)

マホさん(以下「マホ」)：私は、教員と生徒の間に主従関係はあってはいけないと…。

増井：主従関係はあってはいけない。うん、うん、うん…。

マホ：大人だから「子どものオマエらはこういうことをちゃんと聞かなきゃいけない」。…「いけない」「いけない」っていうのが、最近なんかすごい多くて、弟が中学生なんですけど、なんか「先生がこう言ったから」とか、全く何も物事を考えてなくて(笑)。その分自森の教員の方々は私たちに考える時間をくれる、しっかりと対等の立場で…大人だからどうたら子どもだからどうたらっていうのが一切ない。そういう関係が一番いいのかなって思います。

【高校校長 鬼沢真之先生】 自由の森生の主体性と行動力に驚かされた。そのあり方は、先生の言葉を借りれば、先生方が「恣意性と闘い」つつ、個々の「自由」を体現して関わることで作り出される。鬼沢先生に、そのベースにある、同校に受け継がれてきた「文化」を語ってもらった。話が深かった。

【多様性の中の共通項】

増井：まあ、「共通項」的に、述べられるとするならば…。

鬼沢：「生徒のことをちゃんと理解してるか」っていうことが、大事じゃないかなと思いますよ。そうねえ…ほんとに色んな教員がいるし。「こんなんで大丈夫かよ(笑)」って思うことだっていっぱいあるし、ほんとに生徒たちが、こう…(教師が)頼りないから、もう「オレ達がやんなきゃいけないんだ」っていう風に言うくらいの担任だってもちろんいるわけですよ。それは…まあ、担任の「頼りなさ」がオーラのように出ていて(笑)。

増井：(笑) それも、ある面で生徒さんの育ちにつながってる…。

鬼沢：そう。それも、実は、生徒たちが「この担任にあんまり自分たちが依存するとロクなことにならないから、頑張ろう」っていう風に「思わせてる」っていう意味では…プラスの効果を持つっていう風には思うんです。だからそういう意味では色んな教師がいてよいと。いた方がよいと。大切なのは…それでも、やっぱり生徒たちを「ちゃんと見ている」「理解をしようとしている」っていう、その指向性がきちんと確立されているならば。

【重荷を降ろして関わるということ】

鬼沢：なんだろうなあ…つまりね、多分、学校の先生の多くは「ナメられてはいけない」、とか…えーっと

…「威厳を持っていなければいけない」とか…やっぱり「正しくなければならない」とかいう重荷を背負ってると思うんですよ。

増井：うんうん…分かります。

鬼沢：で、そういうなかで、こう…必ずしも今それを貫くことが難しいと思われる中でも、ムリしてやんなきゃなんないことって、ありますよね。そりゃ、ウチの学校だってもちろんありますから。そういう軋轢の時に…どうかなあ…頭ごなしに、こう、「大人の論理」とか、「社会の論理」とか、「集団の論理」みたいなものを、押しつけないで…一個人として、対峙してくれる、教師の姿。が、あることがやっぱり大前提なのかもしれないなあ…今、話をしながら考えたんですけど(笑)…と思います。

③担任学研究会（都立一橋高等学校）2010年10月08日（金） 中沢先生には、今回の訪問先探しの突破口となってもらった。この会が連載する『月刊 HR』を見て取材を申し込んだところ、温かく応じてもらえた。

【事務局長 中沢辰夫先生】 デキる先生が「職人芸」にするのではなく、担任技術を共有する。学び合う。それを教師の自己実現につなげていくとの担任学研究会の発想は素晴らしい。いい実践には、教師が人間らしく生きる前提が必要であると中沢先生は語る。先生の活動の原点には、高校時代の図書館司書やボート部コーチとの邂逅がある。良き師との出会いが人を作り、生の支えになることを再認識させられた。私もそんな教師を目指したい。

【コミュニケーションが切れていないこと】

増井：(略) じゃあ先生、もう、そろそろ終わりの方の質問になりますが宜しいですか？

中沢：どうぞどうぞ、はい。

増井：これは研究会とはまた離れて、先生がそうやって研究会をなさってるから、クラス経営とか担任の先生像に対して、ある種の「こういうのがいいのではないか」という、理想的なことがおありなのかなって気がするの…大まかなところでいいんですが「こういうクラス経営は、いいクラス経営なのではないか」というのが…もし聞かれたら、どうお答えになりますか。

中沢：なるほどねえ…大変難しい質問ですね。あの…やはりコミュニケーションだと思います、キーワードは。常に生徒とコミュニケーションがとれる、そのコミュニケーションが「切れてない」クラス経営、ということだと思えます。それだと思います…。ある時はこれは、家族と同じで、親とも喧嘩したりするだろうし、兄弟喧嘩もあるだろうし…でも、コミュニケーションがあれば、それは解決できるって思えます。それが切れないようなクラス経営をする。

増井：ふむ…。

中沢：もう「プツン」してしまうんじゃないかと…必ず、誰かと誰かが喧嘩しても、誰かが仲裁してくれたら、仲を取り持ってくれるような役割があったり…。

全ての訪問先で、事前の期待を超える成果が得られた。生徒に関わる心構え、相互交流的な関係作り等について学べたのが大きい。先生方の教師としての原体験など深みのあるエピソードも聞いた。ページの制約からここでは多くを割愛せざるを得ないのが惜まれる。

## 5. 終わりに

今回取材した中沢先生は、クラス経営を理論化する困難を語った。確かにそうで、年間の研究を通じても「こうすれば…」という万能薬的な部分は発見できなかった。ただ、生徒の人格を認め、対話を忘れず、授業や HR を丁寧に行うことは重要なようだ。担任力にも王道はない。

ソクラテスの言葉をもじって言えば「大切なことは、ただ担任することではなく、よく担任することである」と思っている。「よく担任すること」は、年数さえ経てば自然にできることでは、ない。惰性と闘いつつ絶えず学ぶ姿勢は、日々生徒に関わる担任にこそ求められる。私も、今回の研究を土台にして、自分の実践を反省しよう。最後に、今回ご協力いただいた生徒たち、先生方に、心から感謝する。

※報告書に掲載できなかった情報は調査先、研究所との調整後ブログ (<http://blogs.yahoo.co.jp/yosukemasui>) にアップしたい。